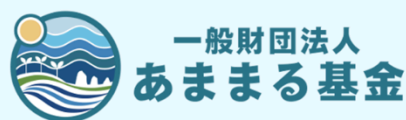




(11月19日開催イベント時の様子)



年次報告書 2025 年度

(2025年4月～2026年3月期)
2026年2月発行



あままる基金のスタート コンセプトの周知と1社の事業支援を開始

一般財団法人あままる基金は、地域に根ざし、次代を担う事業者による新たなチャレンジを支援することで、新しい事業の創出と持続可能な地域経済の循環を実現することを目的として、2025年6月に設立されました。地域に既に存在する資源や人の力を起点に、住民が主体となって事業に取り組む「住民主役事業」を支えることを通じて、地域の活性化やにぎわいの創出につなげていくことを目指しています。

【初年度の取組】

設立初年度となる2025年度は、基金としての基盤づくりを最優先とし、事業支援の実行に先立って、基金の趣旨や支援内容について地域内に広く理解が広がるよう、説明会や情報発信、対話の機会を重ねてきました。単なる資金支援の枠組みにとどまらず、地域資源の循環という基金の考え方を共有することを重視し、事業者が安心して応募を検討できる環境づくりに取り組みました。

【事業募集と支援決定】

その取組の一環として、2025年8月から9月にかけて第1回事業募集を実施し、説明会、事業

募集説明会、事業計画セミナー、個別相談会等を通じて、申請準備段階から事業者への支援を行いました。その結果、3事業者から3件の応募を受け付け、第1次、第2次審査を経て、1社の支援事業を決定しました。これは、あままる基金にとって初めての支援決定であり、基金の仕組みが地域の中で実際に機能し始めたことを示す重要な一歩となりました。

【支援準備と基盤形成】

支援事業の決定後は、採択事業者との協議を継続し、資金支援と経営的な伴走支援を組み合わせた支援の実行に向けた準備を進めてきました。あわせて、島内での認知度向上、事業者との継続的な接点づくり、町や関係団体との対話を通じて、基金の運営基盤や今後の財源確保に向けた土台づくりにも取り組んでいます。

あままる基金は、2025年度を「スタートの年」と位置づけ、この一年で得られた経験と学びを土台に、今後も地域に根ざした持続可能な事業支援の実現に向けて歩みを進めてまいります。



◆2025年度 第1回事業募集の支援先

- ・有限会社 海土物産
- ・支金支援額: 5,000,000円
- ・未利用魚を活用したペットフード事業に対する設備投資への支援。

1. 2025年度の事業活動について

1-1. あままる基金の立ち上げと事業内容

一般財団法人あままる基金は、島根県隠岐郡海士町地域において、地域に根ざした新たな事業創出と持続可能な地域経済の形成を目的として、2025年6月に設立されました。人口減少や産業構造の変化が進む中で、地域に存在する多様な資源や担い手を活かし、意欲ある事業者の挑戦を支えることを目的とした基金です。

本基金の特徴は、従来の助成金や補助金とは異なり、事業者の主体的なビジネスチャレンジを支援の中心に据えている点にあります。単なる資金提供にとどまらず、資金的支援とあわせて、事業の成長や安定化に向けた伴走型の支援を行うことで、事業者が自律的に事業を継続・発展させていくことを重視しています。事業の方向性整理や計画づくり、実行段階における助言などを通じて、事業の価値を高めていく点に、本基金の新しさがあります。なお、本基金の資金的支援は、将来的な償還を前提とすることで資金の循環を生み出し、地域への再投資につなげる仕組みを採用しています。また、支援対象は法人に加え、法人化を検討している個人事業者も含め、事業の成長段階に応じた柔軟な支援を行っています。

こうした取組の背景には、海士町の現状があります。海士町は、町主導による産業振興や雇用創出により「地方創生のトップランナー」とも称される一方で、島という限られた市場環境の中では、会社組織としての事業者が少なく、既存の財団支援や行政の助成制度だけでは十分にカバーできない「ニッチなビジネス事業者」が存在してきました。そうした事業者の挑戦を後押しする新たな仕組みとして、本基金の設立が進められました。

あままる基金がこの取組を行う理由は、地域の中にすでに存在する資源や人材の可能性を引き出し、次代を担う事業者による新しいチャレンジを積み重ねていくことが、地域の持続的な発展につながると考えているからです。支援を通じて育まれた事業が地域に根つき、将来的にその成果が地域へ還元されていくことで、新たな事業や次の挑戦へとつながる好循環を生み出していくことを目指しています。

こうした好循環を、地域の多様な関係者との連携のもとで広げていくことで、事業者の挑戦を支えながら、地域における新たな価値創出やにぎわいの創出に寄与してまいります。

【事業支援スキーム】



- ✓資金的支援と経営的支援を組合せご提供
- ✓事業内容に応じて経営的支援を実施
- ✓一定期間の支援によって事業拡大と自律的な経営を実現

【地域資源の循環の受け皿に】



- ✓様々な事業主体からの資源を受け入れ
- ✓多機関との連携・協力体制
- ✓支援で成長した事業主がさらに資金提供で循環の輪が拡大

1-2. 2025年度の活動方針と評価

一般財団法人あままる基金は、海士町の「ないものはない」という地域資源の考え方を基盤に、地域に根ざし、次代を担う事業者による新たなチャレンジを応援することで、新しい事業創造を促し、地域の活性化やにぎわいの創出につなげることを目指して事業を実施してまいります。設立初年度となる2025年度においても、この考え方を軸に、地域の可能性を引き出す支援のあり方を模索しながら、事業運営を行いました。

2025年度は、地域住民が主体となって取り組む「住民主役事業」を主な支援対象とし、事業募集を行い、資金的支援の実行を進めました。事業募集にあたっては、単なる資金支援の枠組みとしてではなく、「地域の資源循環」という本基金の考え方について、地域内に広く理解が広がるよう、繰り返して情報発信や対話の機会を重ねました。

採択された事業に対しては、速やかに契約締結および資金支援の実行を行うとともに、今後、支援案件ごとに支援アドバイザーを選定し、伴走型の経営支援を実施していきます。採択までに至らなかった事業者に対しても今後も対話を進めていきます。こうした継続的な支援を通じて、各事業の価値向上と自律的な事業運営を促し、長期的には当初の資金支援が基金へ償還され、その資金が再び地域へと再投資されていく循環を目指して取り組みました。この循環を通じて、事業承継や新規創業など、地域における新たなチャレンジの機運が高まることを期待しています。また、基金からの資金支援および運営を支えるため、民間からの寄附を広く募り、2025年度は2,000万円の寄付獲得を目標として募集・広報活動を実施しました。

以上の活動方針に沿った実行目標を6点設定し、活動を実施いたしました。

- ①事業募集の開始、説明会、個別相談会の運営、事業評価委員会の開催
- ②支援先の具体的支援を開始し、ビジネス事業者の経済的・事業的な自律を目指す
- ③島内での認知度を継続して向上させる
- ④ビジネスチャレンジ事業者を呼び込むために、他団体と協働して事業計画勉強会などを開催する
- ⑤個人、金融機関、企業、NPOからの寄付を拡大する
- ⑥町と財源拡大に対しての対話を開始、ふるさと納税活用や補助金など具体的検討



1-3. 今年度に行った主な取組事項

前項に記載した活動方針および行動目標に基づき、2025年度は各取組を段階的に実施しました。以下では、6つの行動目標ごとに、当年度に実施した主な活動内容について報告します。

【2025年度の主な取組事項(時系列)】

日付	活動事項	行動目標との関連
6月4日	あままる基金キックオフのための理事会	-
6月5日	一般財団法人あままる基金設立	-
6月6日	第1回評議員会	-
7月	ホームページ開設・広報開始	行動目標③
7月10日-7月11日	あままる基金説明会	行動目標①
8月1日-9月30日	第1回事業募集	行動目標①
8月6日-8月7日	2025年度事業募集説明会の開催	行動目標①
9月10日-9月11日	事業計画セミナー&個別相談会	行動目標①④
10月1日-11月19日	応募事業の審査の実施	行動目標①
11月以降	事業相談会の実施	行動目標④
11月19日	第1回事業募集についての案件検討委員会	行動目標⑥
11月19日	公開対談イベントの開催	行動目標①
11月20日	理事会開催	行動目標②
12月以降	採択事業案件の具体支援協議開始	行動目標②

① 事業募集の開始、説明会、個別相談会の運営、事業評価委員会の開催

設立初年度として、あままる基金の趣旨や支援内容を広く地域に周知するとともに、第1回事業募集に向けて地域の事業者からの応募を促すことを目的に、基金利用に関する説明会や事業募集説明会、申請を検討する事業者を対象とした事業計画セミナーや個別相談会を7月から9月にかけて実施しました。

第1回事業募集は、8月1日から9月30日までの期間で行い、3事業者から3案件の応募を受け付けました。その後、応募案件に対して事業評価委員会による審査および評価を実施し、その結果を踏まえて、初年度の支援事業の決定に至りました。

【主な活動事項】

日付	活動事項	実施概要
7月10日-7月11日	あままる基金説明会	<ul style="list-style-type: none"> ・7月10日: 2回実施(15:30~/19:00~) 参加者9名 ・7月11日: 2回実施(10:00~/19:00~) 参加者7名 地域の事業者等に向け、基金の趣旨や支援内容を周知するため3部構成で説明会を実施。第1部では設立背景やコンセプトをもとに資金的支援と経営的支援を組み合わせた基金の特徴を説明。第2部では2025年度事業募集に向け、今後の予定や支援・審査の流れを紹介。第3部では質疑応答を行い参加者の疑問へ回答した。



(7月:あままる基金説明会の様子)

8月1日- 9月30日	第1回 事業募集	<ul style="list-style-type: none"> ・事業募集期間:8月1日~9月30日 ・海士町内で実施される事業を対象に公募 ・申込フォームにて募集 <p>https://pro.form-mailer.jp/fms/887eae9335369 (現在閉鎖)</p> <p>海士町の地域資源を活用し、地域活性化に寄与する「住民主役事業」を対象に、第1回事業募集を実施しました。募集に先立ち、7月には基金の説明会を開催し、コンセプトや支援内容について地域内での周知を図りました。また、募集期間中には事業募集説明会、事業計画セミナーおよび個別相談会を開催し、事業検討段階からの相談対応を行いました。</p> <p>これらの取組を通じて、のべ34名(※説明会・セミナー・相談会参加者の合計)の事業者等と接点を持ち、基金の趣旨や支援内容について理解を深めていただきました。その結果、募集期間である8月1日から9月30日までに、3事業者から3件の応募を受け付けました</p>
8月6日- 8月7日	2025年度事業募集説明会の開催	<ul style="list-style-type: none"> ・8月6日:2回実施(14:00-15:00/19:00-20:00)参加者7名 ・8月7日:2回実施(15:00-16:00/19:00-20:00)参加者2名 <p>2025年度事業募集の開始にあたり、海士町内で事業に取り組む事業者等を対象に説明会を開催。回覧板や掲示板を通じて周知を行い、当日は多くの参加者が来場した。説明会では、あままる基金の概要や事業募集内容を説明したほか、個別に歓談の時間を設け、事業の進展や承継に関する意見交換を行った。基金の理念や地域内で資金が循環する仕組みに共感する声が多く寄せられ、今後の事業活用に向けた前向きな反応が見られた。</p>

		 <p style="text-align: center;">(8月:2025年度事業募集説明会の様子)</p>
10月1日-11月19日	応募事業の審査の実施	10月1日以降、事務局による応募事業者との面談や現地踏査を行い、全案件について第一次審査を実施。その後、検討資料を案件検討委員へ提供し、第二次審査を進めた。11月19日には案件評価委員会を開催し、応募案件の評価を行ったうえで理事会への答申をまとめた。

② 支援先の具体的支援を開始し、ビジネス事業者の経済的・事業的な自律を目指す

第1回事業募集の審査結果を踏まえ、11月20日に理事会を開催し、初年度の支援案件を決定しました。あわせて、採択された事業者に対する具体的な支援を進めるため、資金支援の実行に向けた調整や、事業内容および経営面に関する協議を開始しました。12月以降は、採択事業者と継続的に協議を行いながら、支援開始後の伴走支援の進め方や支援体制の構築を進めています。今後は、事業の着実な実行と事業者の経済的・事業的な自律に向けて、継続的な支援を行っていく予定です。

【主な活動事項】

日付	活動事項	実施概要
11月20日	案件検討・決裁の理事会開催	11月20日に理事会を開催し、第1回支援案件を決定した。 ・支援先: 有限会社 海土物産 (※採択案件の詳細は、3-1. 支援事業者・支援案件の報告に記載)
12月以降	採択事業案件の具体支援協議開始	第1回支援案件として採択した有限会社 海土物産に対し、支援実行に向けた協議と準備を継続して実施。今後は契約締結を経て、経営面を含めた継続的な支援を行い、事業の着実な実行と地域資源の活用が進むよう取り組む。

③ 島内での認知度を継続して向上させる

設立初年度における基盤づくりとして、あままる基金の活動や支援内容を地域に発信し、島内での認知度向上を図りました。7月には公式ホームページを開設し、基金設立の背景や趣旨、今後の取組内容について情報発信を開始しました。

あわせて、説明会や各種イベントの開催情報、活動報告等を継続的に発信するとともに、これらの内容についてチラシを作成し、島内の関係機関への配布を実施することで、地域の事業者や関係者が基金の存在や役割を理解し、相談や参加につながりやすい環境づくりに努めました。

また、当初の計画には含まれていなかった取組として、あままる基金のシンボルマークの制作を行いました。シンボルマークの制作にあたっては、公募によりデザイン案を募集し、のべ78人から164点の提案を受けました。提出されたデザイン案については、事務局において118点まで選定を行った後、地域

の皆さんからの意見も踏まえながら検討を進め、最終案を決定しました。

この一連のプロセスを通じて、基金の存在や取組に対する地域内での関心が高まり、結果として基金の認知向上や、事業募集に向けた機運醸成につながりました。

◆あままる基金 ホームページ: <https://amamaru.jp/>

◆あままる基金 コンceptブック

新しい組織・取り組みであることから、地域の資源循環を掲げる「あままる基金」そのものに対して、理解してもらうため「コンceptブック」を作成して、配布説明を行った。広く手に取っていただけるように町役場1F「しゃばりば」にも配架した。

◆あままる基金のシンボルマークの制作

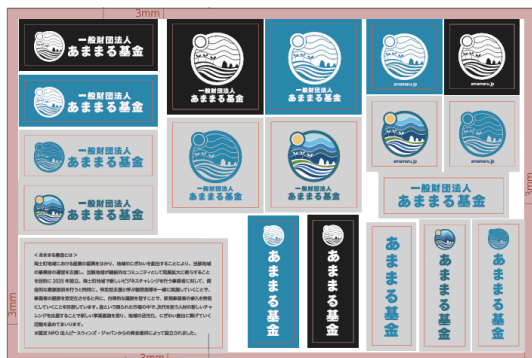


一般財団法人
あままる基金

「あま」は海士町を、「まる」は一体となる「みんなの」の意味を内包していて、海士町新庁舎の名前としても親しみある「あままる」を法人名として刻み込んでいます。

自然豊かな海士町の広い大空や海に囲まれた、この地域において新しいビジネスチャレンジが次々と芽吹いていく姿を目指して、その思いをこのシンボルマークに込めました。

◆ロゴマークシール



◆案内バナー、タペストリー、サインボード




◆説明会開催時の広報チラシ



④ ビジネスチャレンジ事業者を呼び込むため、継続して事業計画勉強会等を開催

事業に挑戦しようとする事業者の参加のきっかけづくりや、事業検討段階からの後押しを目的として、事業計画セミナーや個別相談会、事業相談会を実施しました。9月には、事業計画セミナーおよび個別相談会を開催し、事業構想の整理や計画づくりに関する学びの機会を提供しました。また、11月以降は事業相談会を継続的に実施し、資金支援の有無にかかわらず、将来的な事業展開や次回募集を見据えた相談にも対応しました。これらの取組を通じて、地域におけるビジネスチャレンジの裾野を広げ、次につながる事業者との関係づくりを進めました。

【主な活動事項】

日付	活動事項	実施概要
9月10日-9月11日	事業計画セミナー&個別相談会	<p>・9月10日:2回実施(10:00-12:00/19:00-21:00) ・9月11日:2回実施(10:00-12:00) ・参加者 セミナー:3名/個別相談会:6名</p> <p>2025年度事業応募の受付期間中に、事業者様が当基金や他の機関から資金支援を受けるために必要な事項を実践するためのサポートとして、各回定員6組までと制限し、開催。セミナーでは、事業計画を作る目的、事業計画書の構成や作成方法等の実践内容の講義を、個別説明会では事業の応募にあたっての相談を直接できる機会を提供した。</p>  <p>(9月:事業計画セミナー&個別相談会チラシ)</p>
11月以降	事業相談会の実施	<p>・海士町内の事業者を対象に随時実施 ・無料の事業相談会として開催</p> <p>海士町で事業に取り組む事業者を対象に、無料の事業相談会を実施。主に事業募集への応募を検討する事業者からの具体的な相談を目的としつつ、事業アイデア段階や将来的な事業展開に関する相談も受け付けた。資金的支援と経営的支援を組み合わせ提供する基金の取組を丁寧に説明しながら、事業者一人ひとりの状況に応じた助言を行い、事業運営に貢献しつつ、あわせて基金の活用促進と地域事業者との関係づくりを図った。</p>

⑤ 個人、金融機関、企業、NPOからの寄付を拡大する

寄付による財源拡大については、設立初年度の取組として、あままる基金の理念や活動内容を丁寧

に発信し、理解促進を図ることを重視しました。説明会やイベント、広報活動を通じて、基金が目指す地域資源の循環や支援の考え方を共有し、将来的な寄附や協賛につながる関係づくりに努めました。今後も引き続き、これまでの活動実績を踏まえ、個人、金融機関、企業、NPO等との対話を進めながら、具体的な寄附の仕組みや取組の検討を進めていく予定です。

⑥ 町と財源拡大に対しての対話を開始し、ふるさと納税活用や補助金等の具体的検討

財源基盤の拡充に向け、通年にわたり町や関係団体と意見交換や関係づくりを行ってきました。また、11月には公開対談イベントを開催し、地域資源の循環や基金の役割について理解を深める機会を設けました。本イベントでは、今後の産業支援や地域経済の持続性をテーマに意見交換を行い、町や関係者との連携の可能性を探るとともに、将来的なふるさと納税の活用や補助金等を含む財源確保に向けた検討の足がかりとしました。また、町関係者とは、事業の進展や進捗状況について、定期的に情報交換を行ってきました。

【主な活動事項】

日付	活動事項	実施概要
11月19日	公開対談イベントの開催	<ul style="list-style-type: none"> ・11月19日開催(19:30-20:30) ・海士町役場会議室にて実施 ・公開対談形式のイベントとして開催 <p>あままる基金発足を記念し、基金設立にあたり活動の参考とした一般財団法人神石高原地域創造チャレンジ基金より、前代表理事の上山実氏を講師として招き、吉元代表理事との対談形式による勉強会を開催した。「地域資源を循環させて未来を拓く」をテーマに、少子高齢化が進む地域において新たな事業や人材を生み出してきた実践事例をもとに、基金による産業支援や資金循環の役割について学びを深めた。神石高原町での支援の蓄積や地域経済への波及効果を共有するとともに、海士町における地域経営の取組を振り返り、今後の基金運営や地域産業支援に活かす示唆を得る機会となった。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>(11月：公開対談イベントの開催時の様子)</p>
通年随時	町関係者との情報交換	<ul style="list-style-type: none"> ・海士町及び商工会など関係者を対象に随時実施 <p>あままる基金での説明会・事業募集・セミナー・応募状況などの情報交換を通じて、海士町で事業に取り組む事業者の状況などを意見交換した。事業運営に参考になる情報を交換しつつ、有望な事業者の紹介など基金の活用促進と地域事業者との関係づくりを図った。</p>

2. 今後に向けて

2-1. 目的・目指すゴールと現状

あままる基金は、地域資源を活用した事業の創出と持続的な地域経済の循環を目的として設立されました。資金的支援と経営的支援を組み合わせることで、地域で事業に取り組む事業者が自律的に成長し、その成果が次の挑戦や新たな事業者へとつながっていく循環を生み出すことを目指しています。

2025年度は設立初年度として、基金の趣旨や支援内容の周知、事業募集の実施、審査および支援決定までを行い、第1回支援案件の採択に至りました。現在は、採択事業者との協議を継続しながら、支援実行および伴走支援の開始に向けた準備を進めています。これら2025年度の取組を踏まえ、今後も地域事業者の自律的な成長を支える取組を継続し、持続可能な支援の仕組みづくりを進めていきます。

2-2. 今後の課題

今後の課題は、支援事業の着実な実行と成果の可視化が挙げられます。採択した事業が計画どおり進捗し、地域資源の活用や事業の安定化につながるよう、継続的な伴走支援をいたします。

また、基金としての認知度向上や、事業者との継続的な接点づくりに加え、寄付や協賛などによる財源基盤の拡充も重要な課題です。特に経済環境が変化する中で、収支が調和のとれた展開を図っていくことも重要です。そのため、今後の事業募集を検討しながら、2025年度に継続して、築いた関係性や実績を踏まえ、地域の事業者との丁寧な関係づくりを進めていくことを重視して、基金の活動を支える持続的な仕組みの構築に努めます。

2-3. 次年度の計画

2026年度は、2025年度に構築した基盤を踏まえ、第1回支援採択事業に対して、資金的支援の実行と伴走支援を中心とした経営的支援を進めてまいります。本格的な支援を通じて、事業の進捗や成果を丁寧に確認しながら、事業者の自律的な成長を後押しいたします。あわせて、事業相談会や学びの機会を継続的に実施し、次回以降の事業募集につながる事業者との関係づくりを進めていきます。

最重要課題である財源の安定化については、寄付や協賛の拡大を働きかけながら、運営安定に向けた財源確保、町や関係団体との連携を通じた財源基盤の強化に取り組み、支援の循環モデルを着実に前進させてまいります。

3-1. 支援事業者・支援案件の報告

有限会社 海土物産

・未利用魚を活用したペットフード事業に対する設備投資(冷蔵庫増設)への支援。

支援金額 5,000,000円

① 事業者の概要

有限会社 海土物産は、昭和48年に島根県隠岐郡海士町で創業し、平成2年に法人として設立された事業者です。海士町の豊かな海の資源を活用し、海藻の製造・加工、卸売および販売を中心とした事業を展開してきました。地域資源を活かしたものづくりを通じて、町内外へ商品を提供し、地域経済や食文化の継承に貢献しています。本社は島根県松江市に所在し、海士町内にも加工拠点を有しています。

② 応募事業の概要

応募事業は、これまで十分に活用されてこなかった未利用魚を原材料とし、高品質なペットフードとして商品化する取組です。既存の製造ラインを活用しながら、同事業を拡大していくためにストックのための冷蔵庫を拡大増設します。この事業では、未利用資源に新たな付加価値を与えることで、地域資源の有効活用と事業の安定化を図ることを目的としています。事業計画では、業務用および小売用商品の開発、栄養成分の検査やパッケージ開発、原材料の安定確保に向けた地域内連携等が提案されました。

③ 事業選定経過と支援内容の決定

応募された事業者は、事務局による書類確認及び2025年10月の対面での現況確認、事業踏査、などを進めて、第一次審査としてとりまとめました。事務局から託された資料を、第三者機関として事業評価委員会による綿密な事前審査および質問事項確認など、事務局を通じた数回にわたる確認作業を経て、2025年11月19日に対面及びオンラインで開催された案件評価委員会においての評価を経て最終答申が理事会に付託され、2025年11月20日の理事会において、本事業を第1回支援案件として採択しました。支援内容は、冷凍庫増設や製造ライン整備等の設備投資を目的とした資金支援であり、支援金額は5,000,000円とし、資金用途を設備投資に限定することや、商品開発にあたっては関係団体と協議を行うことなど、事業の実行性を高めるための付帯条件を設定しました。支援の正式決定のタイミングを見計らって、ニュースリリースとして「第1回事業募集の支援事業者決定」を公開いたしました。

④ 支援開始後の協議・取組状況(進捗)

支援決定後は、事業の円滑な実施に向け、関係者間での協議を開始しました。設備導入に関する具体的な調整を進めるとともに、ペットフード商品の内容や改良の方向性について関係者やベンチマーク事業者と意見交換を重ねていっています。また、経営面についても、伴走支援の一環として、今後の事業運営を見据えた協議を行い、支援体制の構築を進めています。契約の締結に基づき、資金的支援の実行を2026年2月に実行いたしました。事業者は、それらに基づいて施工業者と契約、支援内容の実行を進めてまいりました。

⑤ 今後に向けた展望

今後は、契約締結および設備導入を経て、本格的な事業実施と商品開発を進めていく予定です。あままる基金としては、経営的な伴走支援として、事業の着実な実行と成長を後押ししていきます。今後も、本事業の進捗や成果を継続的に報告し、地域資源を活かした事業モデルの確立につなげていきます。

4-1. 2025年度 収支報告

一般財団法人あままる基金の収支報告をします。

経理処理は、外部税理士によって行われ、その正確性、公正性については、理事会および評議会、監事によって確認をされています。

ご不明な点がありましたら事務局までお問い合わせください。

(単位:円)

区分・項目		2025年度 実績
人件費		
	事務局の運営に対応する人件費	
	外部専門家による調査や各種支援の委託費	
旅費交通費		
広報活動・WEB 管理費		
事務所費		
	水道光熱費・家賃等	
	通信費・備品費	
租税公課・修繕費・雑費等		
合計		

弊団体に対して、設立当初よりご寄付をいただいた法人・個人は、以下の通りです。

ご支援、誠にありがとうございます。

・〇〇: xxxxxxxx円 (2025年xx月xx日)

◆ 参考：一般財団法人あままる基金のご紹介



一般財団法人
あままる基金

【シンボルマークについて】

「あま」は海士町を、「まる」は一体となる「みんなの」の意味を内包していて、海士町新庁舎の名前としても親しみある「あままる」を法人名として刻み込んでいます。自然豊かな海士町の広い大空や海に囲まれた、この地域において新しいビジネスチャレンジが次々と芽吹いていく姿を目指して、その思いをこのシンボルマークに込めました。

【基金の特徴】

ビジネスチャレンジのための新しいタイプの基金

- 助成金/補助金のあり方を変える
- 意欲的なビジネス事業者のチャレンジを呼び込む
- 地域の連携ネットワークを活かす

一般財団法人あままる基金は、島根県隠岐郡海士町地域を中心に、地域に根ざした事業者によるビジネスチャレンジを支援することを目的として、2025年6月に設立された地域基金です。地域における新たな事業創出と、持続可能な地域経済の形成に寄与することを目指しています。本基金では、事業者の主体性や将来性を重視し、資金的支援と伴走型の経営支援を組み合わせ提供しています。将来的な償還を前提とした資金支援により資金の循環を生み出し、地域への再投資につなげる仕組みを採用するとともに、法人に加え、法人化を検討している個人事業者も支援対象としています。

あままる基金は、認定NPO法人ピースウィンズ・ジャパン(PWJ)からの全額出捐により設立され、その仕組みや支援の考え方は、災害復興支援や地域創生分野で実績を有する共益投資基金ジャパンの知見を参考に構築されています。

地域に存在する資源や人材の可能性を引き出し、事業が地域に根つき、次の挑戦へとつながる循環を生み出す基金として、今後も活動を続けてまいります。

本基金の活動の様子はホームページでも随時発信しておりますので、ぜひご覧いただき、今後ともあままる基金の取り組みを応援していただけたら幸いです。

◆あままる基金 ホームページ：<https://amamaru.jp/>

【事業支援スキーム】



- ✓ 資金的支援と経営的支援を合わせて提供
- ✓ 事業内容に応じて経営的支援を実施
- ✓ 一定期間の支援によって事業拡大と自律的な経営を実現
- ✓ 様々な事業主体からの資源を受け入れ

【域資源の循環の受け皿に】



- ✓ 多機関との連携・協力体制
- ✓ 支援で成長した事業主がさらに資金提供で循環の輪が拡大